

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	皮膚悪性腫瘍	
	タイプ	メラノーマ	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Association of melanoma and neurocutaneous melanocytosis with large congenital melanocytic naevi: Results from the NYU-LCMN registry	
	論文の日本語タイトル	メラノーマおよび皮膚神経メラノサイトーシスと大型先天性色素細胞母斑との関係：NYU-LCMN 登録からの結果	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上での目次名称		
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー／メタアナリシス II. 1 つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見（IV）	
	Pubmed ID	15787820	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Br J Dermatol	
	雑誌 ID		
	巻	152	
	号	3	
	ページ	512-7	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	2005 Mar	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Hale EK	Oncology Section, Skin and Cancer Unit, New York University Medical Center, USA
	その他著者 1	Stein J	同上
	その他著者 2	Ben-Porat L	Dept. of Mathematics, Statistics and Epidemiology, Imperial Cancer Research Fund
	その他著者 3	Panageas KS	Dept. of Epidemiology and Biostatistics, Memorial Sloan-Kettering Cancer Center, USA
	その他著者 4	Eichenbaum MS	Oncology Section, Skin and Cancer Unit, New York University Medical

			Center, USA
	その他著者 5	Marghoob AA	Dept. of Epidemiology and Biostatistics, Memorial Sloan-Kettering Cancer Center, USA
	その他著者 6	Osman I	Oncology Section, Skin and Cancer Unit, New York University Medical Center, USA
	その他著者 7	Kopf AW	同上
	その他著者 8	Polsky D	同上
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の 8 項目	目的	大型先天性母斑に生じるメラノーマと neurocutaneous melanocytosis(NCM)の発生リスクと臨床的特徴の検討	
	研究デザイン	1 施設における大型先天性母斑患者を対象とするコホート研究	
	セッティング	大学病院の専門外来	
	対象者	同外来に登録された 205 人の患者。うち、170 人は前向きに追跡された。	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず （2）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず （2）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず （22）	
	介入（要因曝露）	NCM や衛星母斑病巣の存在、母斑のサイズ	
	エンドポイント（アウトカム）	エンドポイント	区分
	1	メラノーマと NCM の出現率	1.主要 2.副次 3.その他（1）
	2	メラノーマと NCM の出現に関与する因子の解析	1.主要 2.副次 3.その他（2）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	主な結果	1) 前向きに追跡した 170 人の患者のうち 4 人にメラノーマが生じた。Standard morbidity ratio は 324(95%CI:140-919)となった。 2) メラノーマ発生と有意に関係する因子として、多数の衛星母斑病巣、NCM の存在が挙げられた。 3) メラノーマや NCM を生じた者の母斑の大きさは、生じなかった者のそれに比べ、有意に大きかった。 4) 本登録にエントリーされた 205 人の平均年齢は 1.2 歳、登録からの追跡期間の中央値は 4 年であった。うち 10 人にメラノーマが生じ、その半数は 2 歳までに生じた。 5) NCM は 17 人に生じた、うち 15 人では 4 歳までに生じた。多数の衛星母斑病巣の存在が NCM 発生と有意な相関を示す傾向がみられた。母斑のサイズも大きい傾向がみられた。	

	結論	大型先天性母斑患者において多数の衛星母斑病巣の存在と病巣の大きさがメラノーマと NCM 発症に有意に相関する。
	備考	
レビューワーコメント	レビューワー氏名	斎田俊明
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 (IV) 大型先天性母斑患者の中心的センターであるニューヨーク大学皮膚科における多数例についての解析である。白人患者が主体と考えられるので、日本人にそのまま当てはまるか、検討が必要。